

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	情報経済論		
英文授業科目名	Information Economics		
開講年度	2006年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報ネットワーク学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報ネットワーク学専攻		
担当教官名	福田 豊		
居室	西6-509		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【講義の狙い, 目標】

たとえばe-Japan戦略のように、情報技術の導入をめぐる多くの議論は具体的・現実的になって来ている。だが、その反面、情報技術の開発・応用について、われわれが主体的に評価したり、その方向性について合意を形成したりすることが、手薄になってしまう傾向も出てきている。また、それぞれの現象の内部的な連関についても無関心になり、情報化社会をトータルにとらえる視点を失う危険性も生じてきている。このような断片化を克服するために、情報経済論は有効なのである。実際の開発や導入プロセスを観察すれば分かることであるが、経済分野での情報技術の開発や導入・応用が、現在でも情報化の基底的部分を形成しているという事実があるからである。情報経済論は、多様な情報化現象を統一的に理解するための、いわばプラットフォーム（共通基盤）を提供するものである。

【内容】

- 1 自然科学・社会科学・人文科学
- 2 自然科学の客観性と相対性
- 3 社会科学の主観性と客観性
- 4 社会の変容と変革 - 創発的テクノ・ソシオ・システムの試み -

【教科書, 参考書】

参考書

福田・須藤・早見『情報経済論』（有斐閣アルマ）
 福田 豊『情報化のトポロジー』（お茶の水書房）

【予備知識】

特に必要としないが、情報技術の社会的なインパクトについて、日頃からニュースなどを参照して考えるようにしておくこと。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【演習】

なし

【成績評価】

レポート。提出は数回を予定してる。

【その他】

物事を根源に立ちかえって考える姿勢が大切。その際「意味」がキーワードとなろう。
人間コミュニケーション学専攻の「情報経済システム論特論第一」と合併講義である。